

正誤表

「脳血管攣縮」36巻 pp.25-29

原著 WFNS grade V のくも膜下出血患者における遅発性脳梗塞関連因子に関する検討
三浦洋一, 金丸英樹, 芝真人, 安田竜太, 当麻直樹, 鈴木秀謙, pSEED group

ページ・行	誤	正
p.26 右段 8行目から	… 単変量解析で有意差を認めた因子を用い、遅発性脳梗塞に関連する因子を多重ロジスティック回帰モデルにより検討した。ただし、Spearman の順位相関係数で、相関係数が 0.4 以上または -0.4 以下を相関ありとし、相関を認めた因子については、より p 値の低い因子を用いた。 $p < 0.05$ を有意差ありとみなした。	… <u>また、遅発性脳梗塞に関連する因子を明らかにするため、目的変数を遅発性脳梗塞とし、説明変数として単変量解析で有意差を認めた<u>全ての</u>因子を用いて多重ロジスティック回帰モデルにより検討した。</u> ただし、 <u>単変量解析で有意差を認めた因子間で事前に相関解析を実施し、Spearman の順位相関係数で相関係数が 0.4 以上または -0.4 以下を相関ありとし、相関を認めた因子については、より p 値の低い因子<u>のみ</u>を用いた。</u> $p < 0.05$ を有意差ありとみなした。
p.28 右段 1行目	… シロスタゾール投与の効果が示唆された。	… シロスタゾール投与の効果が示唆された。 <u>一方でシロスタゾールが非投与となった原因については検討を行っておらず、本研究の limitation の一つである。</u>
p.28 右段 8行目から	… クリップ群の方が転帰は良好であった一方で、再出血、脳梗塞、症候性脳血管攣縮はコイル群で少なく、慢性水頭症はコイルで多い傾向にあったが有意差はなかった ¹¹⁾ 。	… クリップ群の方が <u>慢性水頭症は多いが、再出血、脳梗塞、症候性脳血管攣縮は少なく、転帰は良好な傾向にあったが有意差はなかった¹¹⁾。</u>